

4 花粉症に対する星状神経節ブロックの効果
 (霞ヶ浦・麻酔科) 金 幸治, 伊藤 樹史
 須田 高之, 伊藤 直哉
 松尾 麗子, 金子 英人
 安部 雄大

花粉症に代表される鼻アレルギーに対する星状神経節ブロック (stellate ganglion block : 以下 SGB) の効果は、幾多の報告により高い評価を受けている。当施設の麻酔科外来においても5年前より鼻アレルギーの患者に SGB を施行し、その有効性においては確信を得ている。今年当科外来にて SGB を施行した鼻アレルギーの患者のうち集計のできた12名について報告した。主症状のくしゃみ、鼻汁、鼻閉、目のかゆみ、喉のかゆみ、頭重感、日常生活の支障、の7項目をそれぞれ0～3点で評価し、21点満点となる症状スコアを独自に考案し、治療効果の判定に用いた。併用治療は主に鼻粘膜へのレーザー照射とした。1人を除く11名が平均10回の SGB 施行で、平均スコア12点のものが2点以下になった。全症例を通じて副作用は認められなかった。

5 混合リンパ球培養反応によるRAの病因探究—自己の未梢血リンパ球は病変部単核細胞を認識する—
 (血清学) 天野 栄子, 小池 恵司
 鈴田 達男
 (内科第三) 坪井 紀興, 林 徹

RA の病因を探究するために未梢血リンパ球が病変部の自己の単核細胞を認識するか否かを調べた。**【方法】**同一の患者から同時に採取した未梢血リンパ球と関節液中の単核細胞との混合培養反応を用いた。**【結果】**46名中29名の患者で関節液中のB細胞とマクロファージが未梢血のT細胞に認識され、HLA-DR 抗原が関与していることがわかった。この反応が反応細胞の異常によるものか否かを検討した結果、未梢血リンパ球の allo 抗原 PHA, ConA, PMA, OKT3, PPD に対する反応性とこの反応との間に相関は認められず、この反応の陽性群と陰性群の間に有意差も認められなかった。また関節液中の RF, CRP, 免疫グロブリン量のいずれの因子との間にも相関は認められなかった。以上の結果から、この反応は反応細胞よりも刺激細胞である関節液中の単核細胞に原因があると思われる。

6 マウスにおける実験的ブドウ膜網膜炎 (眼科学教室) 田中 孝男, 市側 稔博
 坂井 潤一, 臼井 正彦

【目的】新生児期に胸腺を摘出したマウスに網膜抗原を接種したところ、ブドウ膜網膜炎の発症が認められたので報告する。**【方法】**生後3日のA/Jマウスの胸腺を摘出した。成長したマウスに計60μgの網膜S抗原、IRBPの2種類の抗原をアジュバントと混和し接種した。経時的に臨床症状を観察し、組織所見を検討した。**【結果】**新生児期に胸腺に摘出を受け、抗原感作されたマウスの50%にのみ炎症を発症した。(発症日、S抗原群：平均27日目、IRBP接種群：平均22.5日目)対照群には発症は認められなかった。組織所見の特徴は虹彩、脈絡膜、網膜血管炎であった。**【考案】**新生児期の胸腺摘出によって、この時期に胸腺で行われるサプレッサーTリンパ球が未梢化する機能を失う事が知られている。従って不均等なリンパ球比(T:h/s)の生じている状態に、更に抗原感作が加わった為、通常の接種では発症の認められなかったマウスに炎症が確認されたと考えられた。

7 三日熱を呈した肺好酸球性肉芽腫症の1例 (内科学第一) 岩瀬 理, 鈴木 章孝
 中野 優, 山口佳寿博
 市瀬 祐一, 外山 圭助
 (病院病理部) 海老原善郎
 (外科学第一) 新妻 雅行, 中村 治彦
 池田 徳彦

症例は45歳男性、発熱のため来院。胸部X線像上全肺野に散在する粒状陰影を示し、39℃まで上昇する三日熱を呈した。一般細菌・抗酸菌検索はいずれも陰性であり、マラリア抗体も陰性だった。多種抗生剤・抗結核剤投与にも抵抗性を示した。経気管支肺生検にて確診には至らなかった。開胸肺生検の結果、散在性に肉芽腫形成を認め、それは核に切れ込みを有する組織球様細胞と好酸球より構成されていた。組織球様細胞はS-100蛋白染色により陽性に染まり、Langerhans細胞と考えられた。以上より肺好酸球性肉芽腫症と診断した。

発熱は、ステロイド投与されること無く自然経過で約2ヶ月にて解熱し、肺の異常陰影も改善を認めた。本症例は三日熱を呈し、自然軽快した点で興味ある肺好酸球性肉芽腫症と考えた。